



スポンサー 大阪クラブ DBC 近江八幡クラブ 広島クラブ

主題・スローガン

- | | | |
|---------|---------------------------|---------------|
| 西宮クラブ会長 | 「みんなで考えよう！」 | 濱 浩一 |
| 地域奉仕・ | 「地域社会とのコミュニケーションを見つめ直し | |
| 環境事業主査 | 「私たちにできる社会貢献活動に取り組みましょう」 | 廣瀬一雄 |
| 六甲部部长 | 「困難な時にこそ YMCA とともに進もう」 | 若林成幸 |
| 西日本区理事 | 「原点を知り将来に生かす」 | |
| | 「立ち上がれワイズモットーと共に！」 | 田上 正 |
| アジア会長 | 「新しい時代とともに、エレガントに変化を」 | |
| | 「今すぐ実行を」 | Shen Chi-Ming |
| 国際会長 | 「フェローシップとインパクトで次の 100 年へ」 | |
| | 「自己を超えて、変化を起こそう」 | K.C.Samuel |

2022年
9月
893号
(76期 3号)



9月 西日本区強調活動

- EMC 未来につながるEMC活動
 YES 新規クラブ設立の為に YES 献金 100%を！ 塚本勝己 EMC 事業主任（京都ウエスト）

西宮ワイズメンズクラブ 2022年9月第一例会

- 日時：9月9日(金) 19:00~20:30
 場所：西宮 YMCA 3階会議室
 ドライバー：石井恭子メン、万本敬一メン
- | | |
|--------------|--------|
| 1. 開会点鐘 | 濱会長 |
| 2. ワイズソング | 一同 |
| 3. 今月の聖句朗読 | 阪根メン |
| 4. 食前感謝 | 馬場一郎メン |
| 5. 会食 | |
| 6. スピーチ | 万本メン |
| 「印象派からの近代絵画」 | |
| 7. 誕生日のお祝い | |
| 8. ワイズニュース | 濱会長 |
| 9. YMCA ニュース | 藤田メン |
| 10. 閉会点鐘 | 濱会長 |

今月の聖句

「誠に誠に汝に告ぐ、人あらたに生まれずば、
 神の国を見ること能わず」(ヨハネ伝第3章3節)

人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。新しく生まれるとはどういうことか。いつも考えています。 阪根新

8月出席状況 (在籍会員数 22名)

第一例会 (20土)	第二例会 (26金)
メン 11名	メン 6名
メネット 3名	メネット 0名
ゲスト/ピジター 19名	合計 6名
MU 0名	
合計 11名	出席率 50.0%

**HAPPY BIRTHDAY
 SEPTEMBER**

- 1日 岩田メン 6日 丸山美巴メネット
 17日 宮地京子特別メネット 21日 岡田メン
- AUGUST**
 18日 清水メン 19日 馬場一郎メン

ファンド

	8月	累計
ニコニコ	¥ 0	¥3,000
BF@300	¥ 0	¥7,500

会長 濱 浩一 直前会長 廣瀬 一雄 副会長(次) 未 副会長 石井 恭子
 書記 小野 勅紘, 山口 吉郎 会計 重村 仁, 濱崎 進一 監事 岡田 佑一郎, 阪根 新 担当主事 藤田 良祐
 地域奉仕・環境事業主査 廣瀬 一雄 LD 委員 馬場 貴英 組織検討安全対策委員 山口 吉郎

会長メッセージ

会長 濱浩一

8月15日（月）に山口政紀メンが天に召され、8月18日（木）の告別式に参列してきました。

六甲部からも多くの仲間が参列され、讚美歌とキャンプソングが唄われる山口メンを送り出すにふさわしい葬送会でした。



故山口メンとは、私が大学に入学して神戸YMCA 少年部の

ボランティアリーダーを始めた時からのお付き合いになります。ワイズメンズクラブでのお付き合いもありますが、姫路YMCA退職後に、会社経営に携われた時にも、同じ大学卒業、同じ電機業界ということですーっとご指導を頂いた関係にありました。そのご指導も独特な叱咤激励で、直球ではなく変化球で言われるので、難しく理解できないことも多くありました。そのたびに『濱にはちょっと難しいかな？通じないかな？』と言われたのですが、その通じなさが私の取柄だと言われたのを懐かしく思い出されます。

ここ最近入退院を繰り返しておられ、お会いする機会がめっきり減っていました。お元気になってお会いできる日を心待ちにしていたのですが、誠に寂しく残念です。

8月の芦屋クラブとの合同例会では故山口メンを偲びつつ、思い出話が弾み親睦を深めることとなりました。謹んでお悔やみ申し上げますとともに、心よりご冥福をお祈りいたします。

9月例会は万本メンのお話をお伺いしますが、万本メンの違った一面をお楽しみください。また、10月は恒例のじゃがいもファンドの時期となりますが、カーニバルが今年も中止になりましたので、じゃがいもファンドを中心に例会を進めてゆきたいと考えています。

8月第一例会報告

山本常雄 丸山悦治

8月第1例会は8月20日の夕刻18時より、4年振りに芦屋クラブと合同で、阪神香櫨園駅近くのイタリアンレストラン「カクチーナ」で開催されました。

コロナの感染がピークを迎えるなか特にクラスターを起すことがないよう対策《三密回避・黙食・マスク着装での会話等》を徹底、万全を期して開催されました。開会に先立ち、8月15日の朝急逝されました故山口政紀ワイズのご冥福をお祈りし、全員で黙祷を捧げました。

その後芦屋クラブの大岩雅典会長のご挨拶と点鐘で開会となり、ワイズソングはカクチーナの本日のピアニスト（海賀千代さん＝シンガーソングライター/アフリカの太鼓ジャンベ奏者垣内大樹さんとユニット「大地の種」結成）の伴奏に角地オーナーのテノールも加わり大いに盛り上がりました。



続いて芦屋ワイズ羽太秀樹ワイズの聖書朗読（旧約聖書箴言6：7～8 勤勉の勧め）とその解釈（人間は十分に備えが出来るか？）を解説頂きました。



次にゲスト紹介がなされ、芦屋

クラブの3名と西宮クラブの2名の方が紹介されました。続きましてワイズニュース・YMCA ニュースが各会長と坂本主事より行われ第I部「例会」（事務連絡および各種報告）は終了しました。

その後準備を整え、第Ⅱ部「親睦会」は西宮クラブの小野ワイズの食前感謝、芦屋クラブの上野ワイズの乾杯のご発声で美味しい会食(イタリア料理)とライブが始まりました。イタリア音楽・カンツォーネ色を想定していましたが、オープニングが「花」であったのには驚きました。ライブは角地オーナーのカンツォーネを中心に、ほかバスバリの中山知明さん、トランペットの潮田彩花さん、前出の打楽器奏者の垣内さんにもウェーター・ウェイトレス兼務で演奏や歌を歌ってもらい大いに楽しませてもらいました。

お誕生日のお祝いは、芦屋クラブ坂本主事1名で、お店からケーキをプレゼントされ、角地オーナーが最初



にイタリア語で、続いて全員英語でハッピーバースデーを唱和し祝福しましたがあまりにも突然のことであり、感涙にむせびながらのお礼の言葉がありました。

その後アピールタイムがあり、芦屋クラブゲストの竹林裕子さま(One Camp 実行委員)より、8月3日~7日に掛けて開催された余島での神戸YMCA One Campの報告と協賛に対する御礼の言葉がありました。続いて小野ワイズより来年2月に実施予定の



第3回東西日本区合同大会でのDBC締結に資するゲームの、ゲーム紹介や協力依頼の要請があり、最後に濱

会長による閉会の挨拶(その前に海賀千代さんにアンコールがありもう1曲ご披露頂き)と点鐘にて楽しい合同納涼例会はお開きとなりました。

西宮クラブは今まで何度か利用して雰囲気は承知していましたが、芦屋クラブの方は初めての人も多く、大変感動しておられた様子でした。



前日山口邸からお借りしました政紀さんの遺影はグランドピアノの上に飾られワインを掲げながら終始笑顔絶やさず、本来ならこの合同例会に参加すべしと楽しみにして居られましたが叶わず、残念な思いをされていたと伺いましたが・・・皆さまとの最後の交流を愉しまれていただろうにお見受けしました。



参加者は【敬称略】西宮クラブ 小野 勅紘、重村 仁、馬場 貴英、濱 浩一、濱崎 進一、廣瀬 一、廣瀬 敦子、藤原 百合子、丸山 悦治、丸山 美巴、万本 敬一、山口 吉郎、山本 常雄、宮地 京子の各メン&メネット、芝川 又美・恭子ご夫妻(ゲスト)の16名。芦屋クラブは上野 恭男、大岩 雅典、柏原 佳子、桑野 友子、坂本 孝司、島田 恒、堤 清、中山 豊美、羽太 秀樹、濱瀬 真知子、板東 幸子、福原 吉孝、増田 知子、山口 光一各メン&ウイメンおよび奥田 実、狩野 将慶、竹林 裕子(ゲスト)の17名でした。

山口政紀さまを偲んで… 合同納涼例会にて

芦屋クラブ 柏原佳子

その日は、ゴルフで、ロビーに到着したと同時に電話とSNSが入りました。山口政紀ワイズが亡くなられたこと、電話の向こうの山本常雄ワイズのお声も動揺されていて、私は咳が止まらなくなりました。大切な内容は、告別式はもちろんの事、2日後に控えた合同納涼例会は決行すると言う濱浩一会長とドライバーのご決断でした。山口政紀ワイズも喜んでくれるだろうと！コロナ禍のために、いつの頃からか夏の恒例になっていた行事は3年も空白になっていました。西宮クラブさまが準備された場所は、カクチーナ、イタリアレストランです。先のクリスマス例会でもオーナーのテノールとコック長のバリトンに酔い、プライベートでもバイオリンと独特のお洒落な雰囲気が好きでした。昨年12月、西宮クラブクリスマス例会に、ピジターは誘わない中で、山口ワイズが、上野ワイズと私を友人として招待してくださいました。只、そのとき、山口ワイズが急遽、入院された事を知り断念したことを思い出します。時々病室から、早く元気になってゴルフをご一緒したいとメールをいただいていた。6月、「ようやく退院しましたので、体力を付けてゴルフを！」と書いてくださっていました。本当に又ゴルフにご一緒できると信じていました。山口ワイズ所属のゴルフ場にはコースの途中にエスカレーターが有り、キャディーさんも上野ワイズも洋子さんも前を行かれ、私は、エスカレーターを両手で持っていて（手摺りは動かないことを知らず）、あれよ、あれよと脚が空に向かってしまい、その私の背中を山口ワイズがしっかりと支えてくださり、あわや、というときにキャディーさんが走り戻り事なきを得ました。なぜ、今、こんな思い出が浮かんでくるのでしょうか。私は、思い出しても可笑しくて涙が頬を伝うままにパソコンに向かってます。ゴルフ場に、それもまだコースに出ない前に、訃報第1報を受けたことを不思議な思いで受け止めています。トランペットの一定の音程を崩さない押さえた演

奏がよみがえります。ピアノの上に置かれたご遺影は、YMCA・ワイズメンズクラブ・教会・ヨット・ゴルフ、又晩年のご選択にも迷いのない山口政紀さまの心から溢れる笑顔だと思いました。献杯！



余談になりますが…

山本常雄

余談になりますが、政紀ワイズの遺影をお借りするのに前日山口邸へお伺いした時に、例会グッズも西宮 Y から一式お借りして車に積んであることに気づき、万国旗・点鐘ベル・木槌・スクラップブックも一緒に降ろし、政紀さんの遺影・遺骨の前に万国旗・点鐘ベルを配置し、讚美歌「安かれわが心よ」の曲を流しながら暫しの間 臨時（ミニ）例会を開催。思い出を語り、平安の時を共有しました。参加者は政紀さん、洋子さん、政隆君、麻衣子さん（洋子さんのお嬢さん）、廣瀬直前会長、山本の6名でした。



おっちゃんの、おっちゃんによる、おっちゃんのための、おっちゃん山口政紀さん

小野勅紘

山口政紀さん、敢えて「おっちゃん」と呼ばせていただくことに、いつも親しみすら感じておられた方は多いでしょう。



私がその「おっちゃん」に初めてお会いしたのは、神戸YMCAの「内海（うちのみ）」キャンプでした。1957年（昭和32年）11月に神戸市が対岸にある同じ港湾都市のシアトル市と姉妹都市の締結をしたのを受けて、1966年（昭和41年）神戸YMCAでもシアトルYMCAと交流プログラムを開始しました。その手始めにその夏、シアトルYMCAから男女各5名の高校生を含む約15名のメンバーが来日しました。訪ずれたのが、その年廃止された山のキャンプ場の「青野」キャンプ（小野市青野ヶ原）の代替として開発に入ったこの「内海」キャンプでした。当時内海のキャンプリーダーを務めていた私は、中島紘リーダーと共に男子グループを担当しました。

余談ですが私の母校の神戸市立葺合（ふきあい）高校でも1961年（昭和36年）からシアトルの高校との交換学生交流が始まり、当時数人の同級生が短期交流で渡米していて、今も交流が継続されています。

その内海キャンプに中高校生の少年部メンバーを引率されて来られたのが、「おっちゃん」でした。通常キャンプリーダーは大学1年時の4、5月頃に1週間位のオリエンテーション訓練を経て、その夏からキャンプに着任する習慣でしたが、「おっちゃん」はその時既に4年生。あれっというのが実感でした。後で判ったことですが、彼の父上は有名な賀川豊彦先生の有力な支援者で常に賀川先生と行動を共にされていて、その関係でご子息であった政紀さんが神戸YMCAに入職することになり、急遽主事見習いとして、4年時からリーダーとして参加することになったようです。

父上の山口正雄さんは大阪ワイズメンズクラブのチャーターメンバーで、その後西宮YMCAの設

立や、西宮ワイズメンズクラブチャーターにも尽力されたことは、既に皆さん周知のことでしょう。

その時キャンプファイアで、「あるおっさん、言わはった♪」といったゲームをリードされて、その風貌からも「おっちゃん」が定着したものだと思われれます。自他ともに異論もなかったようです。

その後、内海キャンプ場（キャンプ長は故山岸主事）は急峻な崖地や荒地であった上、毎日マムシが出て、1、2匹はメンバーが生け捕りしては、キャンプ場の入り口のパネルに3枚に下した成果を貼り付けて「〇〇作」というのが恒例でした。町役場に持参すると1匹当たり400円というご褒美が貰えました。崖を駆け下りた海岸は岩だらけでとてもキャンプ場としては不揃でした。翌年の台風でメインキャビン「カメラア」が崖から落下して破壊したこともあり、内海キャンプは遂に2年で断念。その代替として開始した沼島キャンプも数年で断念となり不作続きでした。（私は草刈りの際に先頭でそのマムシにオデコを咬まれて、故山崎薫氏に背負われて救助された事件もありました。2m位であったので、どうもヤマカガシだったようで安心しました）

星流るブランケットパーティ恋語る 直行

YMCAに入職された「おっちゃん」はその後余島のキャンプ長も経験されましたが、父上の逝去に伴い、父上が経営されていたオリジン電気商事に転職されて、最近まで経営者としてお努めされました。

西宮ワイズでは、古参で精通されていたので、事あれば政紀さんに聞けば大丈夫ということで、クラブでは「黄門さま」的存在で、皆便り切りでした。山本メンがスポンサーで私が入会したのは、2002年のことで、イエス団の理事もされていた山口政紀さんから、「君は別帳になっているよ」と言われました。「別帳ってなんですか」と聞くと「幽霊会員のことだよ、すぐに戻らなくちゃ」ということで、ずっと離れていた神戸イエス団教会に復帰したのが2003年10月22日の礼拝でした。私を教会に導いて下さった当時の少年部担当主事であった二宮さんも健在でした。その1週間後に、高校の恩師でもあり、当教会の古参会員で賀川先生の直弟子でもあった住友カズエ先生

西宮 YMCA: 間 勝也

が帰天されました。まるで私の復帰を待って下さっていたかのようでした。その先鞭をつけて下さったのが政紀さんでした。YMCAにも教会にも35年ぶりの復帰でした。聖書にあるようにまるで「放蕩息子」そのものだったことでしょうか。

ただ「おっちゃん」こと山口さんにお会いしていつも気になったのは、そのヘビースモーカーぶりでした。私は40歳で禁煙して以来1本たりとも喫煙していませんが、おっちゃんは、学生時代から「ハイライト」をこよなく愛して、ずっとスモーカーぶりは変わることがありませんでした。折を見ては禁煙のお奨めをしましたが、ハイライト党は現役であり続けました。その点は本当に残念に思っております。私が定期購読していましたが「日経サイエンス」の学説によれば「ニコチン」の害だけが強調されるが、実はタバコの栽培にはラジウム系の放射性物質のラドンが農薬に使用されていて、喫煙者は微量ではありますが、常に放射性物質を被爆していることになるという。それが実害になることはあまりよく知られていないようです。その点がいつも健康に影響があるのではと本当に残念に思います。

私たちを強力なリーダーシップで導いて下さった「おっちゃん」には、まだまだ教えて戴きたかったことや、指導して戴きたかったことが沢山ありましたが、それはもうお聞きすることが出来なくなりました。これまで私たちを導いて下さり本当に感謝いたしております。

「おっちゃん」の「おっちゃん」による「おっちゃん」のための「おっちゃん」であり続けた山口政紀さん、お疲れさまでした。そしてありがとうございました。安らかにお休み下さい。

秋近し 刎頸の友見送りにて 直行



長かった夏休みも終わり、西宮市内の小学校では8月30日から新学期がスタートとしています。8月は全国的に新型コロナウイルスの感染が拡大し、育成センターを利用する児童・支援員も何人かの陽性者がありました。陽性者は何人か出ましたが、育成に来ていた時の子どもたちは元気いっぱいでした。感染対策を行いながら子どもたちが楽しい夏休みを過ごしてもらえるように、支援員は工夫を凝らしながら様々なプログラムを考え実施しました。三密が避けられない育成センターの環境の中で、支援員は子どもたちに寄り添い保育を提供し続けてくれました。その働きを覚えていただければ幸いです。

1. 香櫨園小学校放課後キッズルーム事業

西宮市からの委託事業として、香櫨園小学校での放課後キッズルーム事業が4月からスタートし、初めての夏休みを迎えました。夏休み始めてすぐは1日利用が140名を超える日もあり、対応に追われましたが、お盆に近づくにつれて利用数は減っていきました。

夏休みの期間中に、神戸YMCA 学院専門学校日本語学科の留学生（韓国、中国、フィリピン、ベトナム、ミャンマー出身の方々）が10日間にわたって、子どもたちと遊ぶボランティアにきていただきました。子どもたちには、教室を超えた友だちや、見守りをしている地域の大人、多種多様な人たちと関わりながら、成長して欲しいと願います。

2. サポートプログラム サマースクール

8月19日（金）、20日（土）の2日間、サポートプログラムの子どもたちを対象としたサマースクールを実施しました。1日目は電車を乗り継いで京都に行き、トロッコ列車に乗りました。2日目は県立海洋体育館へ出かけて力又体験を行いました。遠出をしたり、体験をしたり



と友だちやリーダーと一緒に満喫することができた2日間になったのではないかと思います。

3. 第2回西宮YMCA 地域イベント

9月23日(金・祝) 10:00~11:00 地域の親子を対象としたプログラムを計画しています。場所は香櫨園浜。With コロナが当たり前になってきましたが、その中でも思いっきり体を動かして、心も体も発散できるように楽しんでもらおうと計画しています。お時間が許すようであれば覗きにきていただけたら幸いです。



ワイズニュース

【今後の予定】

- 9月 9日(金) 第一例会 19:00-20:30
- 9月10日(土) YYYフォーラム 市ヶ原ハイキング
- 9月11日(日) ローンボール大会
- 9月17-19日 YYY 余島ユース・シニアキャンプ
- 9月22日(木) 第二例会 19:00~
- 10月14-16日 じゃがいも到着・配達

DBC交流会

10月29日(土)

西中国部会懇親会後にDBCでの懇親会開催

10月30日(日)

呉観光 ヤマトミュージアム・てつにくじら館

昼食 広島駅前 オコスタ での好み焼体験

14時~15時終了予定

広島クラブ会長 山下 晴基

醍醐天皇に「鷺の王」と褒められた鷺は？

藤原俊夫

鷺と聞くと、まず純白でスマートな白鷺を思い浮かべる人が多いと思いますが、鷺の間にはペンギンのようにと言われる彩りと体型の鷺もいます。それが今回の主役、ゴイサギです。漢字で書くと「五位鷺」。平安時代、清涼殿に昇殿を許される官位の一番下が「五位」でした。なぜそのような名前が付いたのか？そのお話をいたします。

「平家物語」や「大鏡」に次のような話が載っています。

醍醐天皇(885~930)が神泉苑に行幸された折、池の汀に一羽の鷺がいるのを見て、蔵人を呼んで捕らえてくるよう命じた。蔵人が歩み寄ると鷺が飛び立とうとする。「宣旨(帝の命令)ぞ！」と声をかけると鷺がひれ伏したので捕らえて天皇のところに連れていった。天皇は「汝が宣旨に従って参りたるこそ神妙なれ」と言い「直ちに五位になせ」と命じた。それに加え「今日より後は鷺の中の王たるべし」という札を下賜され、鷺の首にかけてお放しになった。

これ以来、この小太りの鷺は「五位鷺」と呼ばれるようになった、とされているのです。その前の名前が何だったのかは伝わっておりませんが、ちょっと楽しい話ではありませんか？なお、この話は能楽で「鷺」という演目になったそうです。

なお、五位鷺の子供は「ホシゴイ」と呼ばれており、親と全く違う色合いをしています。チョコレート色の地に白い斑点、それを星に見立てた命名です。昔の人は洒落ていますね。(写真は次頁)

編集後記

ブリテン担当 山口吉郎

ブリテンや議事録をお送りした折、闘病中の政紀メンとよくメール交換をしました。いつも最後に小旅行や美味しい食事を、のんびり一献をと記されてたのに、ついに楽しい再会を実現できず終いとなり残念でなりません。山口政紀メンありがとうございました。



親鳥 <ゴイサギ・五位鷺>



巣立ち雛 <ホシゴイ・星五位>

